

## 【医療経営特集】

# 医療経営の革新と質の向上をめざして（2）

国民医療費が、国内総生産や国民所得を上回るペースで増大する傾向にあり、平成23年度には38兆円を超え、40兆円を超える日が近づいてきている。また、厚生労働省によると、2005年に比較して2010年に就業者人口が増加したのは、医療・福祉と情報通信業のみであり、さらに就業者総数は約5,961万人の中で、医療・福祉は、総数の10.3%を占めている。

これまでは、これだけの市場に対して、経済学も経営学も正面から取り組むことが多くなく、一部の研究者たちによって研究が継続されてきた。しかしながら、最近では、市場が大きくなり、経済産業省なども政策の重点を医療や福祉に移すようになってきたことで、医療領域に新規参入研究者たちが増えてきた。この現象は、医療経営に関する多角的な研究がなされるということでは大変良いことではあるが、一方、理論だけを振り回す、現場を知らない研究者群によってチェリーピッキングされることも目についてきた。

このような環境下で、日本大学商学部のような領域の研究者によって、医療経営をキーワードにして真摯に医療を研究対象とする論文の執筆を依頼し、ここに刊行することができた。

論文として、2本掲載した。最初が、病院での戦略的CSRおよびBSCを議論し、その上で、CSRの考え方をBSCのフレームに統合し、Sustainable BSCのフレームの提示と実行可能性を示した論文である。次いで、JSPS科研費基盤研究（B）でのカナダ・台湾・日本の病院でのBSCの利用と成果について比較検討した論文である。この調査は医療BSC領域で、世界で初めての調査であり、その成果の一部について論文としたものである。最後に、研究資料として、病院のリスクマネジメントについての論文を広く収集し、執筆者の切り口で分析した結果と今後の病院でのリスクマネジメントの方向を示した。

このように今回は、医療経営に関係する手法・考え方および実証研究から、医療経営にとって重要な領域に関して論文と研究資料を掲載した。次回以降は、より多角的な、そして、実証的に医療経営について論じていく予定である。

これらの一連の研究が、わが国の医療経営で、現実問題の解決に少しでも寄与することを願っている。

医療経営特集 責任者  
教授 高橋淑郎

